

信濃毎日新聞 号外

発行所 信濃毎日新聞社
長野本社 〒380-8546 長野市南県町657番地
電話(026)受付236-3000
編集236-3111 販売236-3310
マーケティング(広告)236-3333
松本本社 〒390-8585 松本市中央2丁目20番2号
電話(0263)代表32-1200
報道32-2830 販売32-2850
営業(広告)32-2860
©信濃毎日新聞社2025年

購読のお申し込み
フリーダイヤル
0120-81-4341
信濃毎日新聞デジタル
<https://www.shinmai.co.jp>

長野市長選 5氏の争い

選挙戦スタート 26日投開票



長野市長選立候補者

(右から届け出順)

小泉一真 59 無新

作家・ユーチューバー元市議・県職員・足立区職員・早稲田大卒退

平本浩一 59 無新

経営コンサルタント元世界銀行職員・英オックスフォード大院修

荻原健司 55 無現①

市長元参議院議員・県教育委員・県スキー連盟副会長・早稲田大卒

草間重男 75 無新

無職・長野五輪記念学校設立準備者元福祉施設職員・会社員・山形大卒

野々村博美 68 無新

無職・共産党県委員・党長水地区副委員長元市議・信州大医療技術短大卒

任期満了に伴い19日告示された長野市長選は届け出が締め切られ、新人で前市議の小泉一真氏(59)・西和田、新人で元福祉施設職員の平本浩一氏(59)・石渡、新人で元福祉施設職員の原健司氏(55)・北石堂町、現職で1期目の荻原健司博美氏(68)・三輪の無所属5氏による選挙戦が確定した。長野駅前再開発などのまちづくりや子ども施策、物価高対策などを巡り論戦が始まった。投開票は26日。

小泉氏は長野駅善光寺口で第一声を上げた。一部住民の苦情で廃止した青木島遊園地を巡る市の対応を批判。長野駅前再開発では公共性の確保に取り組むとし「子どもが泣かない、周辺自治体に負けない市をつくる」と訴えた。

平本氏は七瀬南部の事務所での第一声で「市民が苦しむ物価高の対策に予算を使うべきだ」と訴えた。五輪施設改修などに多額を支出する現状を批判し、データセンターなど新産業誘致で高賃金を実現し若者の活躍を促すとした。

荻原氏は市役所前で第一声。1期目に注力した子育て施策に加え、企業誘致や商店の魅力向上などで経済振興を図るとアピールし、2027年の善光寺御開帳などを機に「世界を代表する観光都市に生まれ変わらせる」と述べた。

草間氏はJR篠ノ井駅前で第一声。長野冬季五輪の交流活動「一校一国運動」の意義などに触れ、「観光・平和都市の長野をつくっていきたい」と訴えた。市民の声を市政に反映するため、対話の機会の充実にも取り組むとした。

野々村氏は権堂町での第一声で市政の抜本的な転換を主張。駅前再開発の見直しや公共交通の充実、学校給食無償化などを掲げ「税金を箱物行政でなく市民の命や暮らしを守るために使すべきだ」と訴えた。共産党の推薦を得た。

市長選と同日程で告示された市議補選(欠員2)も届け出が締め切られ、新人6氏による選挙戦が確定した。

18日現在の有権者数は30万6504人(男14万7759人、女15万8745人)。